

特別支援教育に役立つ「教材共有ネットワーク」の共有性を高める取組

教材共有ネットワーク 教材データベース 教材共有

関西発達臨床研究会

〒636-0343
奈良県磯城郡田原本町秦庄201-5<http://www2t.biglobe.ne.jp/~doremi/usagawa.htm>

1. 研究の背景

特別支援教育では、個々の実態や課題が多様であり、それに応じた教育や指導が求められている。一般的教育内容や方法で対応することは難しく、専門的指導や対応が必要である。そのため多くの教員は、日々の指導の難しさを感じている。そこで、指導に役立つ発達や教材情報を共有できるサイトを作ることができれば、現場で直接指導に当たっている教員にとって有用なものとなるのではないかと考えた。

昨年度までパナソニック教育財団の特別研究指定を受け、奈良県立奈良養護学校が中心となり、教材共有ネットワークを立ち上げることができた。それは特別支援教育で使用する教材情報や役立ち情報の共有を目指したもので、月 2000 を越えるアクセスがあり、会員数も 300 名近くになっており、関心の高さ、必要性の高さを感じている。

2. 研究の目的

情報発信とその活用という点では大きな成果をあげてきたが、共有性の点では他からの情報発信があまりなく課題を残している。ここでいう共有性とは、そのサイトで情報を得るだけでなく、情報発信もでき利用者同士の情報交換、意見交換ができるという意味である。

共有性を高めることができれば、数多くの教材情報や学習情報、役立ち情報を集めることができるだけでなく、共に考えたり質問したりすることも可能となる。そこで、その共有性を高めるためにどのようなことができるのか、何が必要なのかを探り、実現していくことを目的に、この研究テーマを設定した。

3. 研究の方法

これまで共有性を高めるために、関西発達臨床研究会の協力を得て、関西地区を中心に教材共有ネットワークの研修会を月 1 回程度開催してきた。この取組により研究会メンバーへの理解が深まった。情報発信を他校にも広げていくためには、他校の理解と協力が必要であり、各学校で推進していく人材とのつながりが重要となる。幸い関西発達臨床研究会には、関西圏だけで 42 校の特別支援学校に窓口となる人材がおり、協力して進めていける状況が整っていた。

関西発達臨床研究会では、感覚と運動の高次化理論の研究と研修を中心に活動しており、その理論は、教材共有ネットワークの教材を整理する際の発達観ともなっている。感覚と運動の高次化理論を学ぶことで教材共有ネットワークの情報をより深く理解し、活用していくことにつながる。関西発達臨床研究会では、これまでこの理論を広めていくために、日本各地で研修会を実施してきた。そこで教材共有ネットワークの説明を感覚と運動の高次化理論の研修会に含めていくこととした。

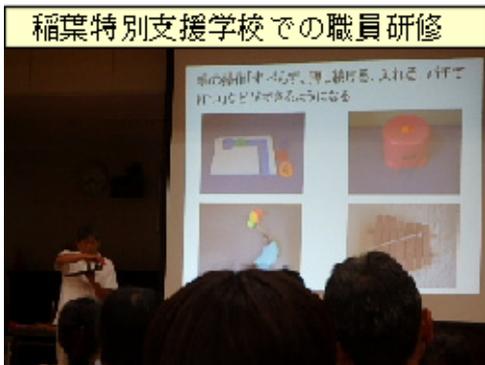
その他、具体的方法として取り組んだことは次の点である。

- (1) モデル校を設定し、教材を共同開発し、それを教材共有ネットワークに掲載することで内容の充実を図る。
- (2) 学術大会や研究会などで積極的に研究発表を行い、教材共有ネットワークの仕組みや活用方法について広く紹介していく。
- (3) 感覚と運動の高次化理論の研修会を各地で実施し、発達観や理論と合わせて活用方法を紹介していく。
- (4) 「教材共有ネットワーク活用ハンドブック」を作成し、研修会などを通して紹介していく。
- (5) より共有しやすいネットワークサイトの検討と現行サイトの修正を行う。

4. 研究の内容・経過

(1) モデル校との教材の共同開発と教材共有ネットワークへの掲載について

今回の研究に当たって、共同研究を三重県立稲葉特別支援学校、宝塚市立養護学校、大阪市立西淀川特別支援学校に依頼し、教材開発を進めることにした。進めるにあたっては、それぞれの学校の教員全体に



理解していただく必要から、各学校において「感覚と運動の高次化理論」と今回の研究の目的についての説明会を職員研修の形で実施した。三校ともに、校内での研究体制を整えていただき、学校レベルでの支援をいただくことができた。

三重県立稲葉特別支援学校では、研究部が中心となり、教材開発と現存教材の整理に取り組むことができた。教材検討会の折には、学部ごとに目的のはっきりした使いやすい教材情報を多数提供していただいた。

宝塚市立養護学校では、学校の研究活動の中に取り入れていただき、学校の研究活動の一環として教材開発を位置付けることができた。研究部を中心に校内での検討会も開催し、教材検討会の折には、5名の



担当者が参加し実際の使い方の実演をしていただくなど、有意義な情報交換につながった。

大阪市立西淀川特別支援学校では、校内での研究をテーマ別のグループ研究の形でなされており、そのグループの一つが教材開発グループとなり、今回の研究に協力してくださることとなった。この研究グループからは、独創的な教材が多数提案された。その内の一つが写真にあるビニールクロスである。とても滑りやすい素材でできており、二つ折りにして広げ、その上に子供を乗せて布を引っ張ると簡単に動かすことができるというもので、前庭感覚を使った楽しみ方の学習に利用することができた。



教材検討会については、8月30日と1月24日の2回にわたって実施することができた。モデル校と奈良養護学校から教材を持ち寄り、作り方や使い方の意見交換を行った。目の前の教材を基に話を進めることができたため、活発な意見交換が見られた。知的障害を中心とする特別支援学校と肢体不自由を中

心とする特別支援学校で、教材の目的や使い方、学習時間の設定方法など、違う点も多数あり互いの理解を深めるよい研修会となった。特に、授業の設定で自立活動からアプローチする教材と各教科の内容からアプローチする教材で目的の設定に大きな違いがあることを感じた。

ここで紹介された教材については、随時教材共有ネットワークへアップロードし、公開していくこととなった。

(2) 学術大会や研究大会での研究報告について



学術大会や研究大会での研究報告にも力を入れた。昨年度に引き続き、特殊教育学会では自主シンポジウムを開催し、昨年度倍の人数を上回る約50名の参加者があった。参加者の教材共有ネットワークに対する関心は高く、終了後には10件近い問い合わせがあった。中にはすでに活用しており、さらなる教材や役立ち情報の掲載を求められることもあった。

長野県で開催された全国肢体不自由教育研究協議会全国大会でも、第1分科会「授業改善」の中で、奈良養護学校での教材共有ネットワークを活用した取り組みについて報告することができた。全国レベルの大会ということもあり、約60名の参加者で名簿を確認すると半数以上が、校長や教頭という管理職であった。「授業づくり」に生かせるものとして教材共有ネットワークへの期待感は高く、教材の検索方法や会員登録の方法などについての説明を多く求められた。

ここでの発表の中から地域での説明会の開催以来が多く寄せられ、来年度、北海道、富山、長野、埼玉、鹿児島にて開催していくことが決まった。

その他、全日本教育工学研究協議会全国大会富山大会、発達臨床研修大会沖縄セミナー、日本音楽療法学会第15回大会での自主シンポジウムにて研究発表を行った。

(3) 感覚と運動の高次化理論と教材共有ネットワークの研修会について

それぞれの地域にある特別支援学校や研究団体などの依頼により、日本各地で感覚と運動の高次化理論及び教材共有ネットワークについての研修会を開催した。開催した地域は次の通りである。

三重自立活動研究会（2回）、大阪府立藤井寺支援学校、大阪市立光陽特別支援学校、葉山町発達臨床研修セミナー、沖縄発達臨床研修セミナー、鹿児島発達臨床研修セミナー（2回）、宮崎発達臨床研修セミナー（2回）、京都発達臨床研修セミナー（2回）、淑徳大学発達臨床研修セミナー、仙台発達臨床研修セミナー、札幌発達臨床研修セミナー、なんとカンファレンス、池袋発達臨床研修セミナー。

これらの研修会やセミナーでは、教材共有ネットワークの説明だけでなく、その背景となっている発達理論である感覚と運動の高次化理論の研修を合わせることで、内容の理解だけでなく、具体的活用方法にまで広げていくことができ、わかりやすい研修として参加者からたくさんの評価をいただいた。

(4) 「教材共有ネットワーク活用ハンドブック」の作成と紹介について

教材共有ネットワーク活用ハンドブックは、活用していくに当たってその仕組や内容、利用方法を細かく説明したマニュアル本である。サイトの画面を使って一つ一つ手順を追って解説してあるため、不慣れな人でもその通り進めれば必要な情報を取り出すことができるように構成されている。

利用者からの意見として、会員の登録方法がわかりにくいとの指摘があり、登録画面の解説とその手続についても説明を加えた。掲載している画像がパソコンの画面をキャプチャしたものであるため、印



刷すると見にくいという指摘もあり、見やすく分かりやすいものにするために、さらに工夫を重ねていきたいと思っている。この冊子が完成したのが11月になってからであり、それ以前の研修会への参加者には渡すことができていないが、関西発達臨床研究会のホームページにアップしていくなど、利用できる形で提供していけるように対応していく予定である。

内容的にも全部の機能を網羅できている訳ではないので、さらに充実を図っていきたい。

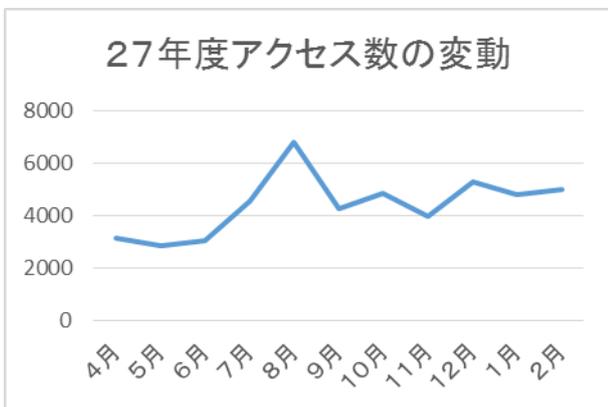
(5) より共有しやすいネットワークサイトの検討と現行サイトの修正を行う。

教材共有ネットワークのサイト修正については、畿央大学及び東大阪大学短期大学部の協力の下、検討を行っている。このサイトづくりを中心的に行ってきた東大阪大学の田先生が9月に亡くなられたことで、一時滞っていたが、現在は畿央大学の西端先生を中心とした新しいグループによるサイト修正の検討会がスタートしている。

5. 研究の成果

今回の研究を通して、奈良養護学校中心に進めてきた教材投稿が、モデル校を中心に他校にも広がりを見せてきたことで、確実に共有性を高めていくことができた。他にも多数の学校から活用や協力の申し出を受けることができ、今後さらに広がっていくことが期待できる。

教材を紹介するネット上のサイトやページは多数存在するが、一定の発達観に基づいて教材を整理したり、活用方法を紹介したりしている所はほとんどなく、教材共有ネットワークの大きな特徴でありメリットであると考えている。このことは、発達観としての「感覚と運動の高次化理論」の研修会を多数開催していくことで分かってきたことである。参加者からのアンケートには、教材を通して発達の流れを学ぶわかりやすさと、発達の視点を加えることで、教材のねらいや目的、指導方法などが明確になっていくという意見が多数記載されていた。他にこのようなサイトがないだけに、研修会を重ねていくことで更に内容が充実し、共有性が高まっていくのではと考えられる。



アクセス数を見てみると、全体的には昨年までの2倍近い数字に達しており、特に各地での研修会が多かった8月は約6800になり、過去最高の数値となった。9月の学会、10月の研究大会と続いたこともあり、9月以降は5000前後で安定しているように思われる。

サイトのデザインについては、これからのニーズに合わせて紹介する項目を増やしたり、意見交換がきたりする場を使いやすくするなどの工夫が必要になってくると思われる。新しいスタッフとともに、今後展開していきたいと考えている。

6. 今後の課題・展望

教材共有ネットワークの共有性を高めるための方策を探り、実際の取り組みを進めていくことが今回の研究の大きなねらいであった。1年間のさまざまな取り組みを通して、このサイトの認知度は高まり、アクセス数も昨年の2倍近い数値で安定してきている。さらに魅力あるサイトにしていく中で、共有性を高めていくことができるのではないかと感じている。

研修会を進めていく中で、次の課題が見えてきた。教材を使った学習として、一つ一つの授業や取り組みについては、それなりの成果を得ることができると考えられるが、個々の課題に応じた授業、全体の中での授業の位置づけ、流れの中での授業の位置づけといった、授業そのものを考えるための仕組みの必要性である。

アンケートの中でもいくつか指摘されてきた部分であり、特別支援教育における「授業づくり」の難しさを改めて感じるようになった。新しい先生や専門外の先生にとっても分かりやすく、使いやすい授業づくりのための仕組みができないだろうかということで、「授業づくり支援システム」として研究を始めている。その中には、学習の要となる「感覚の問題」、課題に直結する指導方法、指導を積み上げていくための評価方法、本当に必要な指導内容を選定するための考えるべき要素、それらをまとめ上げていくシステムが含まれている。

通常の教育では、対応が難しいということで特別支援が必要になってくるが、その支援そのものが難しく、多くの教育現場で大きな課題となっている。特別支援のためのシステムを整理していくことで、そうした状況の改善を図ることができないかと考え取り組みを進めているが、その成果についても、今後教材共有ネットワークの中で発信できるようになればと思っている。来年度から、奈良養護学校の中で検討が始まるが、さらにその成果を研究協力モデル校の中でも検証していただき、より確かなものを発信していけるよう取り組みを続けていきたい。

7. おわりに

関西発達臨床研究会の取り組みは、他との連携を深めていくものであり、各地の研修会を企画してくれた学校が団体、グループの協力があってできたことであった。また、教材開発については、モデル校として研究に協力していただいた、三重県立稲葉特別支援学校、大阪市立西淀川特別支援学校、宝塚市立養護学校の先生方に心よりお礼を申し上げたい。

今回の取り組みを通して、教材共有ネットワークへの期待感の強さを痛切に感じている。これからも研究を進め、特別支援にかかわるすべての人たちにとって役に立てるサイト作りに取り組んでいきたい。

< 参考文献 >

- ・障害児の発達臨床〈1〉感覚と運動の高次化からみた子ども理解 宇佐川浩著 学苑社
- ・障害児の発達臨床〈2〉感覚と運動の高次化による発達臨床の実際 宇佐川浩著 学苑社